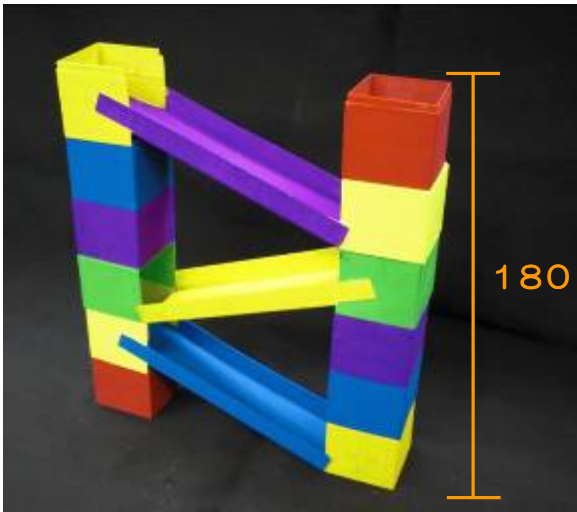
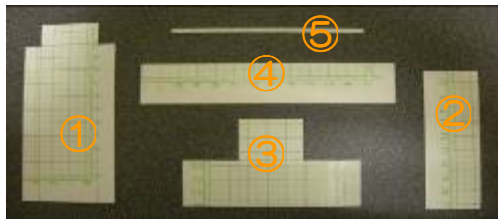


【説明資料】 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的、利用方法、作品自体やその製作過程で工夫したことを、文章、写真、図などで説明。この用紙1枚に記入し、PDFファイルに変換した後、ホームページに貼り付けてください。

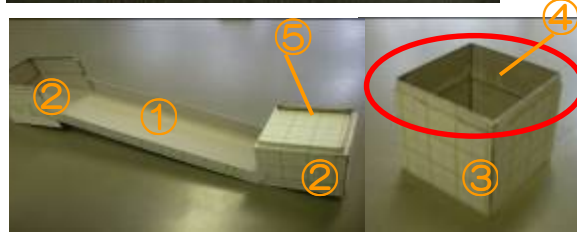
学校名	茨城大学	個人・グループ名	高橋 はるか	作品名	手作りビー玉ころがし
-----	------	----------	--------	-----	------------



【製作動機】
 小学校では図画工作の時間があるが、その内容はデザインを重視したものが多く、技術を追求するものが少なく感じられる。小学校の段階で中学校の技術分野に通じるものづくりの授業を行うことも必要なのではないかと思う。
 そこで私は、ビー玉ころがしのおもちゃを安価で、さらに小学生でも作ることでできる教材を作ろうと考えた。また、作り終わったあとも遊ぶことができ、保存も簡単なものであることを目的として製作した。



【工夫点1】
 材料は工作用紙を使用した。工作用紙は非常に安価であり、小学校でのものづくりに適している。教師が左図のように型取っておくことで子どもたちはきれいな作品を作ることができると思う。



【工夫点2】
 組み立てる際にはボンドを使用した。左図の丸で囲んである部分は部品どうしを組み立てる際に必要な凸部分である。この部分の製作に精密さが必要であるため、小学生のものづくりにおけるスキルアップになると考える。



【工夫点3】
 今回は絵の具で色をつけた。絵の具は小学生にも身近であり、自分の好きな色や模様にできる。色のついている工作用紙も売っているが、白い工作用紙で子どもたち自身が色をつけていくことでそれぞれ違う作品ができると思う。



【工夫点4】
 それぞれの部品がばらばらになっていて組み立て式のものなので、上の図のようにたくさんのパターンに組み立てて自由に遊ぶことができる。もっとたくさんの部品を作るとさらに多くの組み立て方ができるので、クラスみんなのものを集めて大きなビー玉ころがしにすることもできる。また、片付けるときは部品を分解して収納できて家に持ち帰るときも便利である。